

## 10 大学における教育改善等に関するセンター組織の役割と機能に関する調査研究

研究代表者 川島 啓二（高等教育研究部 総括研究官）

### ① 研究の趣旨，ねらい

2000年代前半から、国立大学を中心に「高等教育研究開発センター」「大学教育開発センター」等の名称をもち、各大学における教育改善等を企画・推進するためのセンターが相次いで誕生した。それらの組織は、FD以外にも多様な役割と機能を担うことが多く、大学教育改善のための専門組織として期待されながらも、活動領域の広範さ・多様さは、大多数のセンター組織の性格がインスティテューショナルであるという、これまた独特な条件も相俟って、センター組織の組織ミッションと多様な活動の効果との間の相関関係を輻輳化させ、各大学における教育改革の推進に向けたセンター組織の戦略的機能化を阻害している面が少なくない。かかる事態はセンター組織の性格と役割が未整理なまま、期待される活動のみが膨張し、各大学における諸課題の「処理機関」として位置づけられて、教育改革に資する「戦略的組織」としては有効に機能し得ない結果を招きかねない。

本調査研究においては、各センター組織の、組織目的、組織構成、人員、活動領域、効果（評価）、関係者の意識等についての実態を質問紙調査等によって明らかにし、事例調査と総合的分析によって、その役割と機能に関わる分析と検討を行う。そして、この検討作業を通じて、且つまた、高等教育政策及び大学改革の現段階に関する考究・分析を踏まえつつ、センター組織の在り方について今後の展望を得ることを目的とする。また、調査研究によって得られた知見が、各センター組織の機能化に向けた参考に供されることも期待するものである。

### ② 研究成果の概要

- 質問紙調査に基づく包括的な状況把握の結果、大学教育センター等の極めて多様な実態が明らかとなり、その背景や条件等も提示することができた。
- 事例調査による実態把握においては、個別大学ごとの状況からの問題認識と対応状況の収集と分析により、センター組織に関する知見整理のための枠組みと、今後の教育組織改革のための具体的な課題について示唆を得ることができた。
- 政策的文脈をふまえた理論的な分析と検討により、大学教育センターを含む教育組織の類型的整理と、今後の在り方や展望について、基本的な認識を得ることができた。

### ③ 中期目標との関連性

- 本研究が対象とする大学教育改善は、高等教育研究部の【目標2】大学教育に関わる今日的課題そのものである。
- 本研究の推進を通じて形成された各大学との研究ネットワークは、高等教育研究部の【目標4】であげられたネットワーク形成に該当する。

④本研究に盛り込まれている主なデータ項目

- 大学における教育改善等のための組織体制のあり方に関する調査

⑤今後の研究予定

- FDに関する新規プロジェクト（FDプログラムの構築支援とFDerの能力開発に関する研究）が志向している新しい視点（FDのマクロレベルと教育組織開発）は、本研究の問題意識の発展上にあるので、研究成果を新規プロジェクトに繋げるように努力する。

⑥キーワード

- (1) 教育改善 (2) FD（ファカルティ・ディベロップメント）
- (3) 共通教育 (4) 授業評価 (5) カリキュラム改革
- (6) 教育組織

⑦本研究の研究報告書

- 大学における教育改善と組織体制（平成18年5月）
- 大学における教育改善等に関するセンター組織の役割と機能に関する調査研究（平成20年8月刊行予定）

⑧関連する先行研究や参考となる研究等

- 『大学教育研究センター等の現状と課題』  
新潟大学大学教育研究センター、2003
- 『大学におけるFD・SDの制度化と質的保証に関する総合的研究』  
科研費報告書（研究代表者：有本章）、2005
- 『大学の組織変容に関する調査研究』  
広島大学高等教育研究開発センター、2007